

あおもり 町連だより

第222号

令和4年3月発行
青森市町会連合会
発行者 齊藤裕一郎
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7
TEL 017(734)2584

美しく安心して暮らす まちづくり目指す

環境整備など活動に重き

日の出町会は津軽線「油川駅」と油川中学校との間にある世帯数128軒の小規模で高齢者の割合の高い町会です。

数年前までは、日帰り親睦旅行やウォーキングなどの参加型のイベント中心に活動してまいりましたが、最近では地域の環境整備や広報活動の他、防災対策について意識を高めてきましたので、紹介させていただきます。

美しさには清潔感が伴う

クリーンボックス設置の必要性

美しさには清潔感が伴います。手始めにクリーンボックス(ごみ置き場)の設置(建て替え)を行いました。これには多額の費用を必要としました。青森市はもとより、県内のスーパーマーケットも非常に協力的で3年の間に2基の設置が決まりました。

感動した草取り作業

急な作業にも20名も参加され、町会の底力を見ました。



向かって右が(株)ユニバース、左が県民生協と青森市の補助金で設置



草取り奉仕活動に参加しました



日の出町会ホームページQRコードです



日の出町会

町会長 奈良 安規

情報発信に努める

町会の活動状況を会員に詳しく紹介する手段として、年に2~3回コミュニティ紙『日の出町会通信』の発行をしています。

またスマートフォンなどの情報端末への情報提供を目的に、町会のホームページを公開しています。

課題は防災対策の構築

大切な「向こう三軒両隣」の精神

昨今、地震・噴火・津波などの自然災害が世界中で頻発しており、私ども陸奥湾沿岸に住む者も何時遭遇するかわかりません。

災害発生時には「命てんでこ」(自分の命は自分で守れ)ではありますが、出来ることなら「向こう三軒両隣」の精神で隣り近所同士助け合い、命だけは落とさないものです。

そのためには会員の自然災害に対する危機意識の高揚と、町会として出来る最小限の防災対策を講じていくことが喫緊の課題です。この対策は青森市だけでなく、青森市町会連合会との緊密な連携の基に構築されるべきものと認識しています。

いにしへの「地名」「通り」を知ろう

藩政時代編⑤

塩町と競馬

工藤 大輔編集委員
(市民図書館歴史資料室長)

旧地名標示柱「塩町」

「塩町」はいつから？

藩政時代、現在の青柳2丁目の一部は「塩町」といわれ、モルトン迎賓館の前には地名の由来などを説明した標柱が建っています。

そもそも塩町という地名は、ここで塩商売が独占的に認められたことによるといいます。その年代はさきの標柱は寛文8年(1668)4月のこととします。しかし、私は翌寛文9年閏10月12日のこととするのが妥当とみます。なお、町立て自体はその5年前、寛文4年とみられます。

塩町の衰退

ところが、塩町による塩商売の独占は20年も経たずに崩れます。さらに、標柱によれば元禄3年(1690)6月には塩の生産者による自由販売が認められるようになったといえます。

こうした藩庁の政策転換により、米町や浜町の資本力があるだけでなく販路をも持っ

た商人たちが塩の生産・販売に乗り出します。

こうして塩町は疲弊していきます。さらに塩町の耕作地は土地の状態が悪いので、元禄8年の大飢饉の影響も大きかったことでしょう。塩町でも多くの人が亡くなり、町を離れてしまったといえます。

港町青森と塩町遊郭

その打開策のひとつが遊郭の設置であったと見られます。塩町最初の遊郭は元禄飢饉の年、元禄8年に作られたといえます。元禄15年の青森町には24~25人の遊女がいたようですが、塩町のそれであったかどうかは分かりません。私はもう少し時期は下るのではないかとみえています。ともかく、塩町は18世紀の中頃までに「遊女町」として知られるようになります。

しかし塩町は、幕末~明治の初めにかけて再び衰退することになります。この時は塩町というよりも港町青森そのものが衰微していて、塩町の遊郭はその影響を大きく受けてしまったのです。

芸能のまちへ

明治3年(1870)、藩庁は青森振興策のひとつとして、衰微する塩町、なかでも遊郭の賑わいを取り戻すために芝居小屋を引っ越しさせることにします。寺町(正覚寺と蓮心寺との間)にあった、広居座をここに移転さ

せ、11月5日から興行を開始します。座元(責任者)は弘前の広居藤八という人物でした。

その後塩町には青森座・中村座といった劇場ができ芸能のまちとなっていく訳ですが、そのルーツはこんなところにあったのです。

最大の行事「競馬」と塩町

ところで、塩町の名物行事「競馬」はご存知ですか？毎年4月8日に開催される馬の曲乗りです。

いつから始まったのか確かなことは分かりませんが、幕末の記録にはいくつか事例を見出すことができますし、万延元年(1860)に書かれた、「津軽版弥次喜多道中記」とでもいうべき『御国巡覧滑稽嘘盡戯』のクライマックスは、塩町の競馬のシーンでした。

競馬は塩町のほかに安方町でも開催され、青森町の年中行事ではもっとも人気のあるものであったとみられます。東北巡幸中の明治9年7月15日に、明治天皇にも披露されたのですよ。

明治9年の塩町遊郭
(県立図書館デジタルアーカイブ)

いにしへの「地名」「通り」を知ろう

近現代編⑤

「石森橋」の「石」と「森」とは？



明治時代の石森橋附近 (青森県所蔵県史編さん資料)

堤川の河口に近い場所に石森橋という橋があります。

この橋の東側は港町、西側は青柳で、橋の名前と地名の間に関係はありません。では、石森橋の名称の由来はいったい何でしょうか？

由来は人名

石森橋の名称の「石」は石井省一郎、「森」は大森直輔という人物の名前からとったといわれています。

石井省一郎は福岡県出身で、明治から昭和にかけて官僚・政治家として活躍しました。内務省土木局長や岩手県令(知事)を務めたあと、明治30年(1897)には貴族院議員に選ばれています。土木局長時代に野蒜(のびる)築港工事(現宮城県東松島市における港湾整備)に携わるなど、土木分野での経験が豊富であったことから「土木石井」とも呼ばれていました。

一方の大森直輔は兵庫県出身で、岩手県や埼玉県などの県属(県の事務を取り扱う役

人)を務めていた人物です。石井が岩手県令を務めていた頃は岩手県の土木課に勤務していました。また、明治12年には野蒜築港工事の現場にも出張していました。

駅の建設予定地

石井が岩手県令を務めていた頃、盛岡-青森間で日本鉄道線(のちの東北本線)の建設が進められていました。

このとき、石井と大森は青森駅が建設されることを見越して浪打(現在の港町附近)の土地を購入したといえます。

当時、大森は県属として鉄道に関連する業務を担当しており、駅の建設に関する情報を得ることができた可能性があります。また、大森が青森県にしばしば出張していたという記録も残っています。

しかし、彼らが土地を購入したことによって地価が高騰し、用地買収が難しくなったことから、駅は別の場所に建設されることになりました。

このできごとは各府県の知

村上 亜弥編集委員
(市民図書館歴史資料室)

事を紹介する『地方長官人物評』(明治25年発行)という本にも取り上げられています。

道路建設にも関係

石井と大森が購入した土地に駅は建設されませんでした。やがて開発が進められました。浪打にできた新しい町と蛄貝町(現青柳)を結ぶために橋が架けられ、土地所有者の名前から石森橋と名付けられたのです。

明治44年7月、石井は石森橋と合浦公園を結ぶ道路を整備するため、青森市へ道路用地を寄附しました。さらに同年12月には大森らとともに道路修繕費も寄附しています。二人は地区の発展に大きな役割を果たしたといえるでしょう。

石井町もあった

ちなみに、石井は浪打以外にも土地を所有していました。昭和18年(1943)に発行された地図をみると浦町神明宮の南側に「石井町」と書かれています。この場所も石井が日本鉄道の線路建設を見越して購入した土地といわれています。



石井町周辺(昭和18年「青森市全図」)

回覧板は町会活動の源です

【安方町会】



【新城緑ヶ丘町会】



【横山町町会】



【日の出町会】



【野内町会】



【長島町会】



◇…回覧板発行40件超…◇

町会の広報紙である「回覧板」は地域活動の源です。現在、市町会連合会に届いている町会発行の回覧板は40町会を超えています。

◇…他町会の広報活動知りましょう…◇

青森市町会連合会事務局には5ブロックごとに分類された回覧板を備えていますので是非一度ご覧ください。

◇…今後の取組①…◇

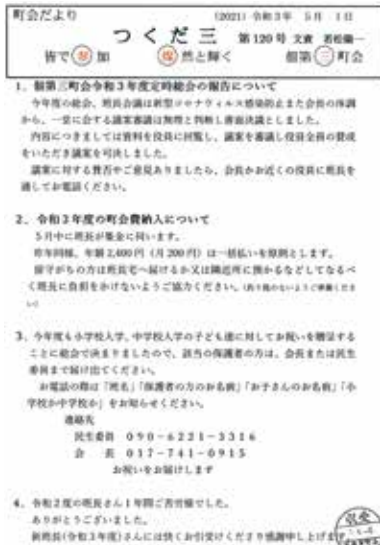
町会回覧板をCD化し市町連の財産として後世に残し、4月に開設の市町連ホームページにも掲載して行きます。

市町連のホームページに掲載しています

【安田町会】



【佃第三町会】



【細越町会】



【桜川南町会】



【奥野町会】



【浜田中央町会】



◇…今後の取組②…◇

各町会で作成された回覧板（広報紙）をもとに、その編集方針や編集方法、個人情報取り扱いなど、ワークグループ等を通じて話し合い、紙面作成のスキルアップに努めたいと思います。

（編集子）

令和4年4月1日 ホームページ開設しました

<https://aomori-choukairen.jp>

青森市町会連合会のホームページを開設しました。アドレスは <https://aomori-choukairen.jp> です。パソコンでも、スマートフォンでも快適にご利用いただけます。ぜひ、ご覧ください。

下記QRコードからもアクセスできます



情報発信の強化と書類電子化の推進

ホームページを開設したことで、これまでよりも早く、詳しい情報を開示・発信・共有できることになりました。

今後の町会づくりのお役にたてるような情報を掲載していきますので、ぜひご活用いただければと思います。



2021年(令和3)12月10日、中部地域協議会「町会長研修会」において勉強会を開催いたしました

掲載コンテンツ紹介

▶ 町会連概要

町会連合会とはどのような団体なのか等を掲載しています。

▶ 町連だより

これまで発行した「町連だより」を全号、PDFファイルでご覧いただけます。

▶ 書類ダウンロード

世帯数及び組(班)数調査票や優良会員推薦書などのファイルがダウンロードできます。

▶ その他 まちづくり協議会について・サイトマップなど

▶ 部会活動

各部会からのお知らせや事業計画などを掲載しています。

▶ 町会について

町会設置の趣旨と概要・町会区別などを掲載しています。

町会区別については、区別マップが、画像とPDFファイルでご覧いただけます。「町会検索」では、お住まいの住所から該当する町会がどこなのかを確認することもできます。

事務局長ポスト 令和4年度も空席

その後の体制は
新執行部で検討



会長
齊藤裕一郎

「後進に道委ねる」

はじめに

令和2年5月、会長選挙立候補締め切り2日前に開催した総務部会で、加川前会長から次期会長職に推挙され、総会での「選考委員会」の結果、第9代青森市町会連合会会長に選出されました。しかし一方で「しかるべき処にしかるべき人がいるのだろうか」と自問自答しながら職務を遂行してきましたが、会長としての政策も一応構築できる方向性も見えてきましたので、後進に委ねることにしました。

1期2年という短い任期ではありましたが、私なりに市町会連合会の基盤である「骨太政策」を推し進めたと思っています。

空席の事務局長への対応

市町連の財政事情も考慮

「内なる改革の推進」の一丁目一番地は人件費の見直しです。これまで事務局職員3名の人件費は市町連の「会費」収入である約900万円を約20%もオーバーし、総収入の約62%占めていました。市町連の財政運営はこれでのよいのでしょうか。



事務局長空席を決めた、2021年(令和3)11月の常任理事会

元市職員の事務局長が自己都合退職されました。そのため令和3年4月から事務局長は空席となりましたが、元もと市町連職務分掌規定に事務局長という職制はありません。しかし、平成11年あたりから市からの派遣人事があり、そのポストが事務局長になったようです。

さて事務局長空席問題ではありますが、令和3年度に引き続き4年度も空席とする事を提案します。この提案は常任理事会の決定に基づくものです。具体的には令和3年度の体勢で今後も運営を図り、ほか各部会の自立活性化により努力していただきたいと思っています。それらについては新執行部で検討して貰います。

市町連創立70周年記念事業

記念誌刊行委員会設置

市町連は2025年(令和7)1月には創立70周年迎えます。そこで記念事業として記念誌発行を企画し、有識者による

刊行委員会を本年度内に発足させます。

コラム太陽



218号から「いにしへの『地名』『通り』を知ろう」を担当して1年が過ぎました。正直にいいますと、本欄に関わるようになるまで私は『町連だより』の存在を知りませんでした。いや、そもそも町会がどのような活動をしているのかということを知らなかったのです。

ですからこの1年間、編集会議に出席し、出来上がった『町連だより』に目を通すことでずいぶんと町会のことを学んだ…気になっています。

(編集委員・工藤大輔)

お悔み申し上げます

東部第7区：唐橋町会
町会長 中川 勝弘 殿
令和3年12月15日ご逝去

東部第4区：矢田町会
町会長 今 吉一 殿
令和4年1月8日ご逝去